

～身近な生き物を見つけよう～

# さっぽろ生き物さがし 2018

## ★ 参加チームのランキング発表!

今回参加いただいたチームの報告数ランキングを発表します。上位チームには、限定グッズをお送りします。たくさんの報告、写真をありがとうございました。

### 報告数（今回対象のグループ）ランキング

チーム名	報告データ数	報告地区数	参加人数	チーム名	報告データ数	報告地区数	参加人数
1 onion-project.com	220	15	1	11 ザ・ビートルズ	58	12	6
2 れつれつ探偵団	203	15	62	12 生き物好きの名無しの権兵衛	54	11	1
3 SIRO	157	17	3	13 チームキタエもん	48	5	4
4 チーム白土家	107	19	3	14 山の男山親爺	45	5	2
5 いまいどり	94	16	4	15 旭山記念公園市民活動協議会	31	1	35
6 チーム石原	84	4	3	16 チームカーブ	29	8	4
7 MMK 調査隊	76	1	3	17 ラララッキー	28	1	3
8 チーム Happy smile	74	12	4	18 ななほし	19	3	3
9 8823	60	10	4	19 カウチボティーズ	18	10	4
10 チームさんたるべつ	60	7	11	19 マウントサークル3	18	6	3
				19 ひよこのおやじ	18	6	3



## ★ 写真コンテストを行いました!

参加者の皆さんには今年も多くのお写真をお送りいただきました。事務局選考により選ばれた10点の写真について、CISEサイエンスフェスティバル(1/13・14)におけるパネル展で人気投票を行いベスト3を決めました!! (総投票数:169票)



1位: オオルリボシヤンマ (しんそう)



2位: アカマルハナバチ (紙飛行機)



2位: ヒバリ (ヒロムシ)

お送りいただいた写真は、情報の精度を上げる手がかりになるとともに、札幌の生き物についての資料にもなります。送付ありがとうございました。



スズラン (チームさんたるべつ)



アキアカネ (旭山記念公園市民活動協議会)



エゾオマルハナバチ (はーもにん)



エゾアカガエル (Mittwochs Party)



キアゲハ (認定こども園英伸幼稚園)



ベニシジミ (SIRO)



エゾマルハナバチ (onion.project.com)

## ★ おわりに

「さっぽろ生き物さがし2018」は、3年目にして初めて5月からスタートし、自然観察に適した春から初夏にかけての時期に実施することができました。カエルの卵・幼生や野鳥、花などを対象として情報を集めることができ、継続しているマルハナバチなどの昆虫たちについても早い時期のデータを得ることができました。また、今年からウェブサイトへの結果報告を開始し、半数近いチームからの報告を得ることができました。調査に参加していただいた方々に感謝いたします。今後も札幌市では、市民の皆さんにご協力いただきながら生き物調査を行っていく予定です。

今回対象とした両生類については、道内の爬虫類・両生類の情報を集めている「ハーブソンHokkaido」と連携して実施し、手引きの作成・写真の判定・結果のチェックなど、多くの部分に北海道爬虫両棲類研究会の徳田龍弘さんのご協力をいただきました。感謝するとともに、今後もこのような連携を深めて、調査の充実とデータの活用を進めていければと思います。

○ さっぽろ生き物さがし2018事務局 (さっぽろ自然調査館内)

〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45山岸ビル  
電話 011 (892) 5306 ファクス 011 (892) 5318 (担当: 渡辺・丹羽)

○ 主催 札幌市環境局環境管理担当課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎12階  
電話 011 (211) 2879 ファクス 011 (218) 5108

✉ 電子メール sapporo-ikimono@cho.co.jp

ウェブサイト <http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/chosa/30chosa.html>

発行: 2019年2月

## ★ さっぽろ生き物さがし2018について

札幌市では、2018年の春から夏にかけて、札幌の自然環境の状況を把握するために、指標となる生き物を市民みんなで調べる一斉調査を行いました(2015年から継続実施)。参加者の皆さんには、5月20日から8月20日までの93日間、市内で観察しやすい6つのグループの動植物について報告してもらいました。

### ● 今回の調査対象の生き物たち

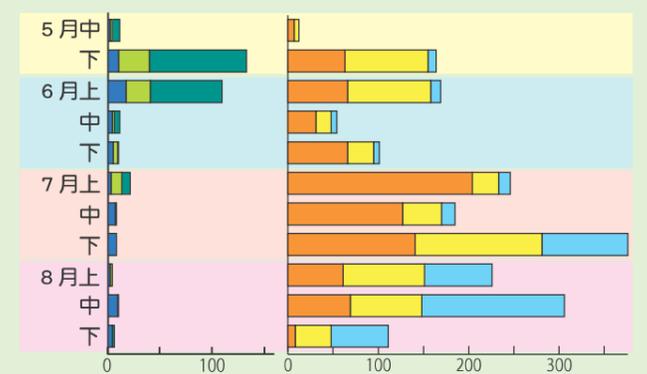
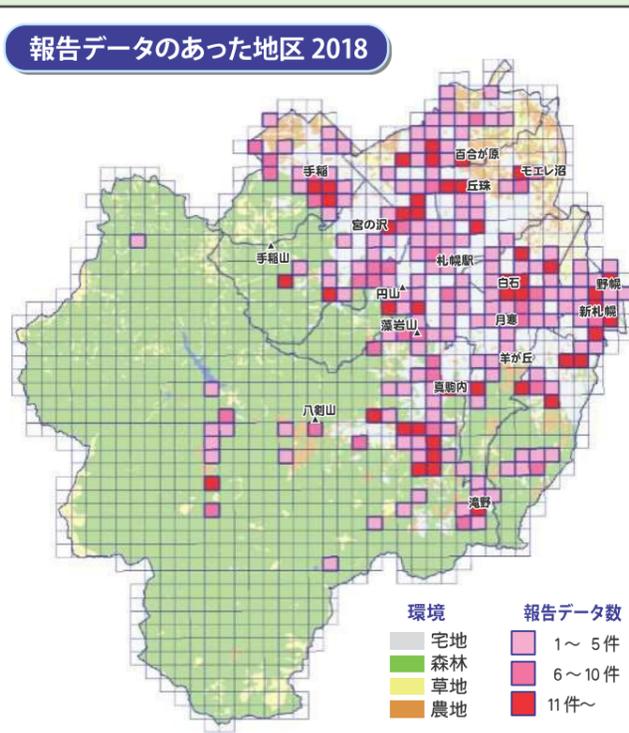


## ★ 調査結果の概要について

今年は春からの実施となったため、参加したのは、105チーム、計537名で、これまでで最も多い参加チーム数でした。今回対象とした6つのグループの動植物の報告データは2,281件で、1003点の写真も合わせて送っていただきました。調査した地区数は226地区(1キロ四方の単位)。今年は市内の約2割の地区を調べることができました。

### 今回の調査の概要

- 調査期間 2018年5月20日～8月20日(93日間)
- 対象範囲 札幌市内(1キロメッシュ数1,192)
- 参加者数 105チーム、537名(小学生参加87チーム(83%)  
※一般219名、中学生49名、小学生186名、幼児79名)
- 調査報告数 総データ数2,675件(対象種2,281件)
- 調査地区数(1キロ四方単位) 226地区(市内の19%)



- カエルのなかま 71件
- 野鳥のなかま 72件
- 春や初夏にさく花 185件
- マルハナバチのなかま 845件
- チョウのなかま 657件
- トンボのなかま 451件

もっとも報告が多かったのはマルハナバチのなかま、次いでチョウのなかまで、初めて実施した5～6月にも多くの報告があったことで、これまでで最大の報告数となりました。カエルのなかま(両生類)はメイン対象とした春だけではなく、成体となる夏にも報告がありました。



札幌市の生物多様性PRキャラクター「カッコ先生」



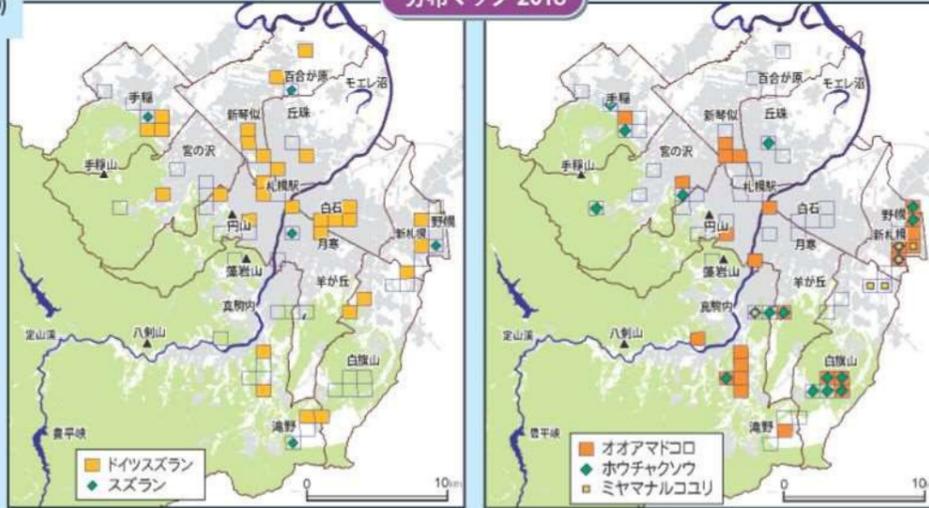
さっぽろ市 02-102-18-2617 30-2-1604

春や初夏にさく花

種名	地区数	データ数
スズラン	5地区	8(5)
ドイツスズラン	30地区	44(23)
オオアマドコロ	25地区	34(20)
ホウチャクソウ	18地区	20(8)
チゴユリ	7地区	7(2)
ミヤマナルコユリ	6地区	6(1)
オオタチツボスミレ	17地区	18(9)
ツボスミレ	12地区	17(3)
ミヤマスミレ	3地区	3(3)
スミレサイシン	1地区	1(0)
タチツボスミレ	1地区	1(0)

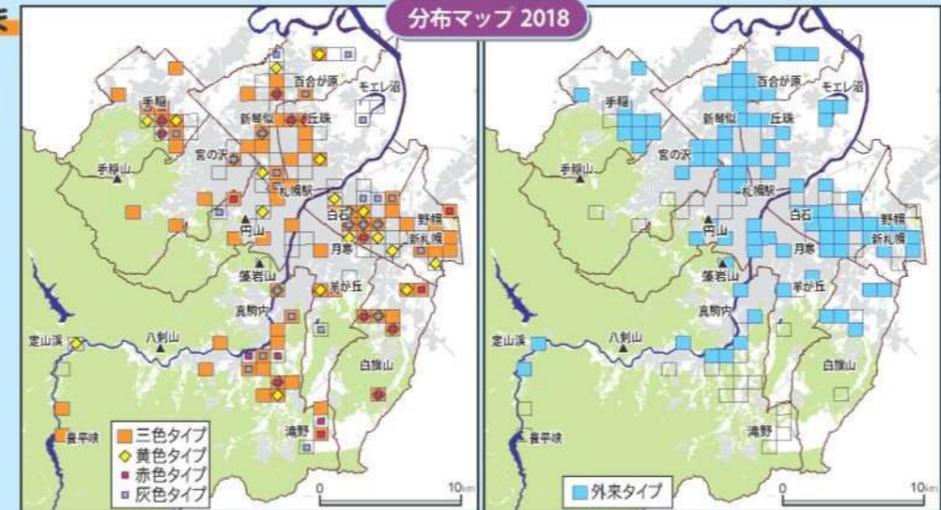
スズランは、自生のもはわずかし確認されませんでした。市の花に指定された1960年ごろは、まだ郊外の丘陵地に落葉広葉樹林が広がり、たくさんのスズランが生えていたと考えられますが、開発が進んだ現在はめったに見られなくなって、市のレッドリストにも載っている通り、希少な植物です。植栽されるドイツスズランが全市的に分布しているのとは対照的で、現在残っている生育地がいかに大事かがわかる結果になっています。オオアマドコロやホウチャクソウは本来どこにも見られる植物ですが、開発が進んだ低地ではなかなか見られない植物になっています。これらの植物は人工的な緑地には生えず、沢沿いのような少し湿った林内を好みます。そのような場所には多様な野生植物が生えることから、良好な自然林のよい指標になります。今回の調査では、山間部だけでなく、市街地の周辺部でもいくつかの場所で生育が確認されました。

分布マップ 2018



マルハナバチのなかま

種名	地区数	データ数
外来タイプ	96地区	353(120)
三色タイプ	80地区	250(91)
灰色タイプ	36地区	98(48)
黄色タイプ	35地区	88(48)
赤色タイプ	19地区	47(20)



マルハナバチの調査は2015年(マルハナバチ調査隊)から始まりましたが、この4年間で最も多い132地区でデータが得られました。在来種(左)では、調査時期を早めたことで、特に低地における赤色タイプの情報が多く得られました。同じ理由により、今年の黄色タイプにはマルハナバチのみが多く含まれていると思われます。外来タイプ(右)は、今年度も低地を中心に広く分布していましたが、豊平川沿いに山地に向かって侵入している様子が分かります。

野鳥のなかま

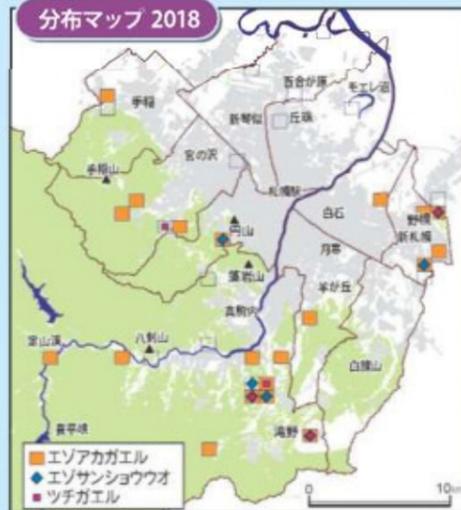
種名	地区数	データ数
ウグイス	21地区	27(3)
ヒバリ	18地区	20(3)
カッコウ	15地区	22(1)
オオジシギ	3地区	3(0)



今年は特徴的な声の野鳥4種を対象としました。もっとも報告が多かったのは林内のやぶに巣をつくるウグイスで、市街地の緑地でもよく見られます。草原に営巣するオオジシギは、空き地などが減っているために数が少なくなっているといわれますが、今回は定山溪など3箇所の報告のみでした。

カエルなどのなかま

種名	地区数	データ数
エゾアカガエル	21地区	31(16)
エゾサンショウウオ	8地区	13(6)
ニホンアマガエル	14地区	14(5)
ツチガエル	5地区	12(9)
アズマヒキガエル	1地区	1(1)



エゾアカガエルやエゾサンショウウオは、山地の麓～山地内と自然度の高い公園周辺で確認されています。特にエゾサンショウウオはより発見地が狭い傾向にあり、水温が低く安定した場所を産卵地を選ぶ傾向にあるためと考えられます。ツチガエルは今回新たな確認地もあり、分布が広がっているようです。

トンボのなかま

種名	地区数	データ数
アキアカネ	49地区	103(36)
ノシメトンボ	33地区	46(20)
シオカラトンボ	21地区	38(14)
オニヤンマ	20地区	31(5)
オオルリボシヤンマ	15地区	27(10)
ナツアカネ	14地区	22(11)
ミヤマアカネ	10地区	16(8)
ルリボシヤンマ	9地区	13(1)
シオヤトンボ	5地区	16(16)



今回の調査期間が8月中旬までだったため、前回(2017年)に比べて、主に8月後半から9月に見られるアカトンボのなかまの報告は減りました。変わって、報告数が増えたのがシオカラトンボとシオヤトンボです。6月ごろから見られ、前半の調査期間ではちょうど確認しやすい時期でした。シオカラトンボは平野部から山間部まで広く見られ、シオヤトンボは山間部に多いのがわかります。姿は似ているトンボですが、くらしている環境の違いが分布図から見えてきます。

チョウのなかま

種名	地区数	データ数
モンキチョウ	66地区	139(35)
キアゲハ	56地区	105(25)
ベニシジミ	32地区	52(21)
クジャクチョウ	29地区	40(14)
アゲハ	21地区	54(5)
ミヤマカラスアゲハ	16地区	17(3)
コムラサキ	12地区	20(11)



チョウは前回(2016年)を上回る報告があり、対象種のうち見つけづらいクジャクチョウ・コムラサキについても前回を上回る地区数になりました。いずれも山地の川沿いに多いチョウですが、今回の結果では平野部でも多く報告されました。これは、エサとなるクジャクチョウの食草(イラクサ科の植物)と、コムラサキの食樹(ヤナギ科の植物)が、平野部でも豊平川や厚別川のような大きな川のそばには多くあり、生息していることを示す結果と考えられます。